# サステナビリティ
# コミュニケーションブック

―持続可能な社会を目指して―

## 2022

HAYASHIBARA

NAGASE Group

## TOPIC

### EcoVadis社のサステナビリティ調査で「ゴールド」獲得

160カ国以上の国、200以上の業種、90,000社以上のサプライヤー企業の持続可能性を評価する国際機関 EcoVadis社。林原はスコアが上位5%以内の企業が認定されるゴールド評価を獲得しました。

GOLD 2022 ecovadis Sustainability Rating

お問い合わせ先

**株式会社 林 原**

**経営デザイン室**

〒700-0907 岡山市北区下石井1-1-3 日本生命岡山第二ビル新館

TEL.086-224-4311 FAX.086-224-8492

林原サステナビリティサイト

https://www.hayashibara.co.jp/data/sustainability/

発行年月:2022年4月

CSA1・22・04

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C004514

VEGETABLE OIL INK

Naturally Printing. Naturally.

2.5T・H・1・A

はじまりは、139年前。甘いものが貴重だった時代に、
太陽の恵みであるでんぷんで水あめをつくったことが林原の原点です。
以来、微生物や酵素の力を利用して素材の開発を続け、
自然と向き合うことで得た気づきや学びを
社会の豊かさにつなげてきました。

そしていま、わたしたちは新たな想いを手にしています。
地球の健康が危ぶまれるなか、これまで以上に自然を尊びながら、
持続可能性を見据えた研究や素材開発に注力したい。
同じ志を持つパートナーと連携し、未来への価値を共創したい。

# Hello Future! Follow Nature!

土壌に負荷をかけず食料を生産する試み。
海を汚さない素材を開発する試み。
自然とともに歩んできた林原だからこそ
貢献できる領域があると思うのです。

太古から息づく微生物や酵素の力にならいながら、
まなざしは遠く未来へ。
林原は創業から変わらぬ想いで、
人と地球の健やかな未来をひらきます。

## 林原のものづくり

1959年に微生物の酵素でぶどう糖の大量製造を果たして以来、
自然由来の素材を開発し革新を起こしてきました。

多機能な糖質
### トレハロース
食品の賞味期限をのばす、水分を保つ、農作物の環境ストレスへの耐性を高めることで生産性を向上させる、といったさまざまな機能を持ち、食品、化粧品、医薬品、アグリ分野などに幅広く使われています。

水溶性食物繊維
### イソマルトデキストリン
ビフィズス菌を増やし、腸内細菌のバランスを整える素材であり、色や匂いがなく、変性しにくいことから、さまざまな食品や飲料に用いられています。

接着力や被膜性に優れる多糖
### プルラン
水溶性の多糖で、接着力が強く、食品の結着材として用いられています。被膜性にも優れており、医薬品用のカプセルや錠剤のコーティングなどにも使われています。

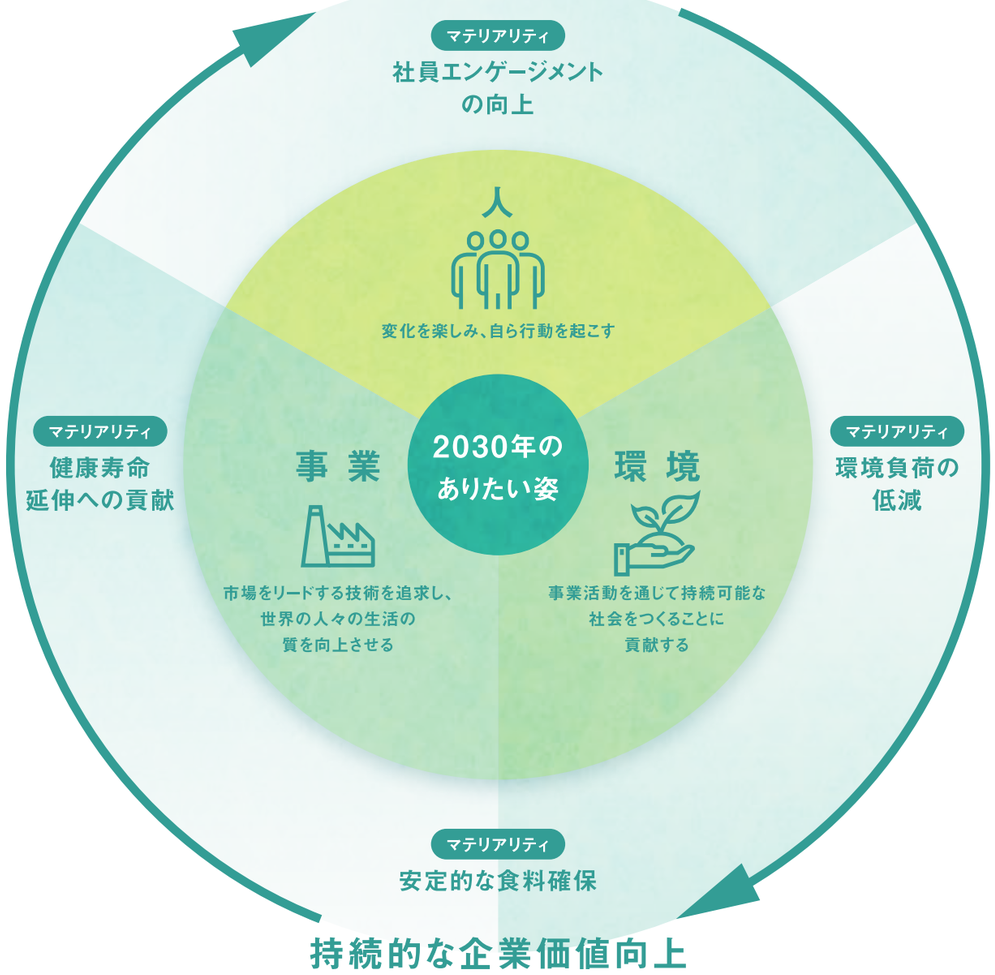
# 自然の力を未来の力へ。

水あめの製造を原点に、製菓、健康食品、パーソナルケア、医薬品など、多様な領域に素材を提供する林原。自然とともに歩む姿勢は創業から変わらず、微生物や酵素の力を自然由来の原料と掛け合わせたものづくりを生業としてきました。だからこそ国連が掲げる「SDGs（持続可能な開発目標）」にも、事業を通じて貢献します。中でも「持続可能な食料システム」の重要性にフォーカスし、2021年9月の国連食料システムサミット、12月開催の東京栄養サミットにおいて、当社のコミットメントを表明しました。フードロス問題や、人口増加に伴う世界的な栄養不足、地球規模の気候変動など、食料システムが抱える課題は、創業当時から食に関わる事業を行ってきた私たちにとって、正面から取り組むべき課題だからです。しかし、容易なことではありません。課題は複雑で難しく、わたしたち素材メーカーの力だけでは解決が難しいという壁を感じています。スピード感を持って解決するためにもパートナーシップを強化しながら「価値の共創」に取り組みたい。そのきっかけづくりとして、国内外で林原の想いや活動を発信していきます。このブックの作成もその一環。同じ志を持つ多くの人と出会い、連携できることを願っています。

代表取締役社長　安場 直樹

## わたしたちのありたい姿

自然とともに歩む林原は、
事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献します。




**林原ビジョン**

研ぎ澄まされたバイオの力で、
独創的な新素材開発に挑戦し続ける企業

# わたしたちの目標

2030年のありたい姿に向けて、いまなにをするべきか。なにができるのか。
SDGsのテーマをふまえながら経営陣と社員が意見を交わし、4つのマテリアリティ（重要課題）を定めました。

## 4つのマテリアリティ

### 1 健康寿命延伸への貢献

### 2 安定的な食料確保

### 3 社員エンゲージメントの向上

### 4 環境負荷の低減

## マテリアリティ特定のプロセス

部門横断の若手・中堅社員のチームが、抽出した社会課題を「社会にとっての重要性」と「林原にとっての重要性」の2軸で検討、整理しました。重点的に取り組む目標を定め、取締役会の審議を経て特定しました。

社会にとっての重要性

・過疎化、少子化
・森林保全素材の開発
・プラスチック代替素材の開発
・グリーン調達資材使用の奨励
・公共事業への貢献

**健康寿命延伸への貢献**
・QOL向上のための素材、商品開発
・健康、栄養に関わる情報発信
・責任ある食育の実施

**安定的な食料確保**
・フードロス削減
・食料の生産性向上への貢献

**社員エンゲージメントの向上**
・健康経営
・人財確保と育成
・労働生産性の向上
・ダイバーシティの推進
・インクルーシブな風土を強化

**環境負荷の低減**
・原料・資材の安定調達
・製品の安定供給
・環境型の製造、供給体制の強化（$CO_2$削減、水使用量の低減）
・資材の有効活用
・省エネ、クリーンエネルギー

・自社の技術力の向上

・コンプライアンス（法令遵守）
・地域との交流、共生

・自社製品の賞味期限延長
・オフィス内のごみの低減と有効活用

林原にとっての重要性



# わたしたちの行動計画

マテリアリティ（重要課題）に取り組むため、サステナビリティ行動計画を策定しました。
全社でベクトルを合わせるため、2030年にわたしたちが目指す“ステークホルダーの皆さまへの提供価値”を明確化し、その達成に向けた2025年度目標を定めています。

## サステナビリティ行動計画

マテリアリティ…❶健康寿命延伸への貢献 ❷安定的な食料確保 ❸社員エンゲージメントの向上 ❹環境負荷の低減

| | 2030年の提供価値 | | 2025年度目標 | 対応するマテリアリティ |
|---|---|---|---|---|
| 【人・企業風土】変化を楽しみ自ら行動を起こす | 事業成長を牽引するリーダー育成とダイバーシティ推進 | | ①サクセッションプランに基づく後継者の育成<br>②女性管理職の育成を促進<br>③外国人の積極雇用 | ❸ |
| | 社員一人ひとりが自発的な貢献意欲をもって能力を発揮 | | ①全員参加の企業風土の醸成<br>②自分で自分の役割を考え、考え（個性）を表現することが、多くの社員の間で習慣化している | ❸ |
| | コーポレートガバナンスの強化を通じたインテグリティの追求：「悪いことをしない」から「良いことをする」へ | | ①コンプライアンスからインテグリティへの変容<br>②コーポレート会議の機能と透明性の向上 | ❸ |
| | 健康経営の推進 | | ①健康の維持・増進とワークライフバランスの推進<br>②交通事故低減<br>③労災事故低減 | ❸ |
| 【事業】市場をリードする技術を追求し、世界の人々の生活の質を向上させる | 食品素材事業 | 食の未来への貢献、生きる力を世界に提供<br>※「国連食料システムサミット2021」へのコミットメント | 健康寿命延伸、安定的な食料確保に貢献する食品への採用<br>採用食品数：100以上を達成 | ❶❷ |
| | パーソナルケア・医薬品素材事業 | QOL向上と健康寿命延伸への貢献 | ①社会課題の解決に資する処方開発と実績獲得（パーソナルケア分野）<br>②取引先との共創を通じた新素材の開発 | ❶❹ |
| | オープン・イノベーションを通じた新規技術の創出 | | ①外部環境に照らして自社技術の強みと弱みを理解し、既存技術を発展させるようなパートナーと共創できている<br>②国内外の先進企業と対等に渡り合える法務力、交渉力の会得 | ❶❷❹ |
| 【環境】事業活動を通じて持続可能な社会をつくることに貢献する | 環境負荷低減を通じた持続可能な社会への貢献 | | 各項目を2018年度比で7%削減：<br>排出$CO_2$量・使用電気量・使用ガス量・使用上水量・排水量・産業廃棄物量 | ❹ |
| | 生産性の向上、モノづくり現場の持続可能性 | | ICT投資の推進 | ❸ |
| | 世界水準のマネジメントシステムを通じた「安心・安全」の提供 | | ①林原独自の統合品質マネジメントシステムの構築とその定着<br>②信頼される製品品質の提供 | ❶❷❹ |
| | Quality Cultureの定着 | | Quality Culture醸成の仕組み構築 | ❶❷❹ |
| | サプライチェーン全体での環境負荷削減 | | ①持続可能な調達：EcoVadis評点の向上<br>②顧客と連携した効率的な輸送ネットワークが運用できている<br>③社会課題観点でのサプライチェーンの見直し | ❹ |

## ステークホルダーとの信頼関係強化 そして価値共創へ

自然由来素材×バイオ技術
豊かな暮らしへの貢献
HAYASHIBARA
安心安全のものづくり
岡山発・地域との共生

岡山から世界へ
サステナビリティ方針

従業員 取引先 研究者・起業家
政府機関 サプライヤー 地域社会

Materiality 1

# 健康寿命延伸への貢献

## 自然由来の力で、世界の人々のウェルネスに貢献します。

途上国では栄養が足りず危機的状況にある命があります。
一方、先進国では栄養過多や偏食が社会課題となっています。
わたしたちは、人生100年時代を健やかに暮らすための
素材や技術、情報の提供に努め、自然由来の
素材の力で世界の人々の健康寿命延伸に貢献します。

2 飢餓をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
17 パートナーシップで目標を達成しよう

## Action Report —取り組み—

### 食べる喜びと健康を両立させる食物繊維素材を発売

**TetraRing®**

新製品『テトラリング®』は、「でんぷん」を原料とする液状の食物繊維素材。ほのかな甘みと、なめらかな粘度が特長です。食物繊維を加えづらかった食品にも使いやすく、不足しがちな食物繊維を補うことができます。糖質オフの食品づくりにもご利用いただける、食べる喜びと健康を同時にかなえる新素材です。

### 高齢者向けの栄養食品や保存食に活用されるビタミンCで被災地の健康も支援

安定型ビタミンC『アスコフレッシュ®』は、熱・光・酸素・鉄・アミノ酸の影響を受けにくいため、防災食・備蓄食に活用することで被災地の課題であるビタミンCの摂取不足解消に役立ちます。また、たんぱく質やミネラルなどとあわせて1品で必要な栄養素を摂取できる高齢者向けの栄養食品や「パーフェクトフード」にも活用され、健康をサポートしています。

### 医薬品の品質を保持し、抗体医薬品の安定供給に貢献

トレハロースには、たんぱく質や核酸を安定化する作用があり、がんや免疫異常から起こる病気や新型コロナなど、重症化した感染症の治療に広く用いられる抗体医薬品などの品質保持に使用されています。また、感染症予防に用いられるワクチンの保存・輸送の容易化や、グローバルな安定的供給に役立つことが期待されています。

### 美味しく食べやすい食事で高齢化社会の課題を解決

高齢になると食べ物を噛んだり飲み込んだりする機能が衰え、栄養不足や誤嚥する確率が高くなります。林原は世界のなかでもいち早く超高齢社会を迎えた日本で、トレハロースを使った美味しく、食べやすい高齢者向け食事レシピの開発・普及に努めています。日本介護食品協議会にも加盟し、ユニバーサル・デザイン・フード（UDF）の普及や、病院・福祉施設の給食の改善提案も行っています。

Materiality 2

# 安定的な食料確保

## 持続可能な食料システム*の構築に貢献します。

気候危機や人口増加で世界的な食料不足が危惧されています。
自社の素材や技術による農作物や畜産物の生産性向上、
産学官連携による次世代食資源の共創により、
持続可能な食料システムの構築に貢献します。

＊食料システム：食料の生産、加工、流通・消費に関わるさまざまな活動

2 飢餓をゼロに
12 つくる責任 つかう責任
17 パートナーシップで目標を達成しよう

# Action Report —取り組み—

## 人と自然に優しい農業へ

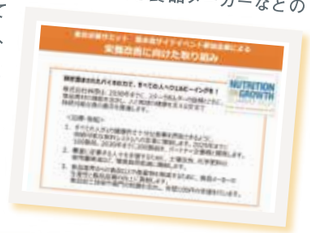
化学肥料や農薬の過剰な使用は、自然環境や農業従事者への負荷となり、農業の大きな課題となっています。トレハロースはこれらの解決にも役立ちます。トレハロースが持つ植物のストレス耐性を高めるバイオスティミュラントとしての効果により、化学農薬の使用を低減できます。さらに農薬の被ばくを抑え、農業従事者の健康を守ることにもつながります。また、植物の生長を促す土壌微生物を製剤化したバイオ資材にもトレハロースが利用されており、化学肥料の代わりにオーガニックな作物を育てることにも貢献しています。

## たんぱく質不足を解決する代替たんぱく質を美味しく

人口増加に伴う食料需要の増加で、たんぱく質不足が危ぶまれています。たんぱく質を補うために、さまざまな代替たんぱく質が開発されるなか、パサついた食感や独特の臭いが課題とされています。これらを解消するのがトレハロース。代替たんぱく質を美味しく食べられるように、レシピ開発や提案を重ねています。

## パートナー企業とともに食品廃棄削減へ

加工食品にトレハロースを加えると美味しく食べられる期間が延びることから、食品廃棄の削減につながっています。さまざまなレシピを開発し、素材の効果的な活用法を食品メーカーなどのパートナー企業に提案しています。東京栄養サミット2021で掲げた「食品加工技術や専門の知識を活かし、年間100件の支援実施」を目標に、積極的に活動しています。



Materiality 3

# 社員
# エンゲージメントの向上

## 働く喜びを豊かな未来の源泉に。

会社と社員が同じ方向を向きながらも、多様な個性を活かせること。
社員の心身の健康を守ることで、
より良い未来の創造に、
一丸となって邁進する企業を目指します。

3 すべての人に健康と福祉を
5 ジェンダー平等を実現しよう
8 働きがいも経済成長も
10 人や国の不平等をなくそう

## Action Report —取り組み—

### 社員がいきいきと働ける新事務所・社員食堂を新設

「社員がいきいき働ける空間作り」「オープンな職場環境」「食の満足度」がコンセプトの新事務所棟は開かれた空間デザインを採用しました。社員食堂はSDGsに注力する企業に委託。林原の食品素材も取り入れた、美味しく、温かく、栄養バランスのとれた食事を低価格で提供しています。明るくゆったりとした空間で、社員同士のコミュニケーションの活性化にもつながっています。

### 社員の看護師が常駐する「こころとからだの相談会」を定期開催

看護師が常駐する相談会を各事業所で定期的に開催しています。合わせて、新入社員・中途採用社員を対象にしたフォロー面談など、社員のこころのケアに努めています。また、コロナ禍の在宅ワークで運動不足に悩む社員向けに、毎月オンラインでストレッチ指導やワンポイント健康アドバイスを行うなど、身体の健康維持の取り組みも行っています。

### 社員と経営陣が「ありたい姿」を対話する取り組みを実施

社員が経営陣と「2030年のありたい姿」をテーマに直接対話する取り組みをスタートしました。全社員約640名を対象に、2年間かけて行う予定で、初年度は約270名と実施。参加者からは「夢を語り合う大切さを実感した」「人を大切にしている社風を感じた」「人財育成についての考えを聞けて良かった」といった声があがっています。

### 働き方改革や育児休業の推進でワークライフバランスを促進

フレックスタイム制度や毎週水曜日のノー残業デー、自身で決める月に1日のMyノー残業デー、年次有給休暇取得奨励デー、テレワークの導入など、ワークライフバランスを推進する制度や仕組みを整えています。また、男性の育児休業取得を促すための勉強会や啓発活動にも取り組んでいます。

Materiality 4

# 環境負荷の低減

地球と共生する企業として、ふたつの方針で環境負荷を低減します。
ひとつは自社の事業活動における環境負荷の低減。
もうひとつが、環境課題の解決に貢献する製品や技術の開発です。
また、これらの成果を環境パフォーマンスデータとして
可視化し、向上に努めています。

◎環境パフォーマンスデータは
右記の二次元コードからご覧いただけます。

## 原料・資材の調達

廃棄処理される果実を原材料に使用

主原料（でんぷん）について森林破壊や人権侵害につながるものでないことをサプライヤーに確認

環境負荷の小さい電力の採用により、$CO_2$排出量を2020年度比10%削減

『錠剤ルミン®A』パッケージにFSC認証紙を使用

水資源の効率的活用

## 製品の製造

- 省エネルギー・$CO_2$排出削減の推進
- 産業廃棄物削減の推進
- 製品の賞味期限の見直し
- 適切な在庫管理・製造計画による無駄の削減
- 汚泥を緑化資材の副原料としてリサイクル

## オフィスでの取り組み

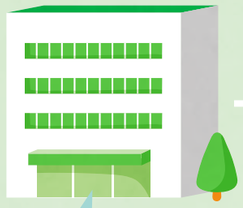
- 文書管理ソフトの導入による、ペーパーレス
- 地域分散受注から本社集中受注への変更によるペーパーレス
- WEB明細への変更によるペーパーレスと輸送レス
- クールビズの推進

## 製品の配送

物流の効率化

出荷ポイントの適正化

## 消費財メーカー・販売者さま



美味しく食べられる期限の延長による食品廃棄の削減

## 消費者のみなさま

『錠剤ルミン®A』などの包材の削減

美味しく食べられる期限の延長による食品廃棄の削減

廃棄処理後の残渣を堆肥・セメントの副原料としてリサイクル

製造時に出る廃糖液を家畜の飼料として活用

環境基準に合わせた排水処理

### 資源の有効活用

限りある資源を有効活用し、廃棄による地球環境への負荷を低減する取り組みを推進しています。そのひとつが、摘果した幼果や落下した果実など、マーケットに出荷できず廃棄処理される農作物からつくられた原料を使った、食品素材や化粧品素材の製造。生産にあたるパートナー企業や団体、生産者の生活を支える仕組みとしても有効です。

### 製造工程の最適化

新しく建設した事務所棟に太陽光発電パネルを設置し、再生可能エネルギーによる自家発電を採用しました。ほか工場照明のLED化、冷水・冷却水設備の運用最適化、冷却水系ポンプのインバーター化、ボイラーの効率改善、省エネ機器の導入、無駄な蒸気使用の削減、保温材の更新、加熱条件の見直しなど、省エネルギーおよび$CO_2$削減を推進しています。

### 物流の効率化

輸送プロセスの見直しを行い、多頻度少量の注文を集約化するとともに、エコなJRコンテナ便を最大限に活用。同時に出荷ポイントを適正化し、共同配送・混載チャーター便も活用することで、路線便の輸送数量を2020年比で約10%削減しました。継続的な品質向上の取り組みにより、製品破損事故を減少させ、これによる廃棄ロスを過去3年間で約40%削減しました。

### 受注業務の集約化・デジタル化

これまで各営業所で行っていた受注業務を本社に集約。FAXを画像処理し、納品書・請求書をデジタル化しました。これにより昨年1年間で、A4用紙10.5万枚の使用削減を実現しました。同時に、郵便の利用も昨年1年間で、1.6万件の削減を果たし、$CO_2$削減につなげました。

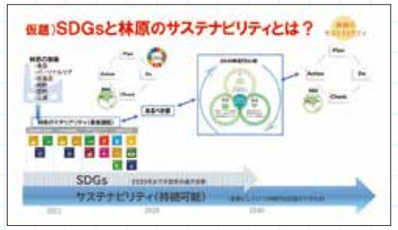
# POLICY ［活動方針］

## 学ぶ・考える

活動を推進するエバンジェリストとして、メンバー自らが学び、考える機会を設けました。そのうえで社内の理解・共感・浸透に向けた議論を重ねました。アドバイザーである岡山大学・横井副学長にご尽力いただき視座を高めることで、本質的な活動の基盤ができました。

## プロジェクト計画

メンバー全員が参加する前提でプロジェクトの進め方を計画。最初は面識のなかった社員たちもお互いの部門の状況や課題を知ることで視野が広がり、連帯意識も高まりました。月1回だった定例会議はその後、メンバーの意思で分科会が立ち上がるなど発展しました。



# ACTION ［仕掛けづくり］

サステナビリティをより身近に感じ、さらに社内での持続性を高める仕掛け作りのアイデア出しを行いました。「即実施可能なもの」「他部署との連携が必要」「実施しない」で分類し、順次実施しています。

- 社員自由参加の座談会を開催

- 社員間での不用品リサイクルの促進

- 各部門の業務とマテリアリティの関連を説明する動画やスライド資料を作成

- マイカップ、マイ箸運動推進

# 『全員参加プロジェクト』

全員参加プロジェクトとは、サステナビリティアクションを全社で実現するための活動体です。各部門から選出されたエバンジェリスト*が主体的にプロジェクトのありかた、進め方、施策を検討し、全社に展開します。エバンジェリストが縦横無尽に経営層や部門をつなぐことで、全社一丸となって成果につなげます。

＊ エバンジェリストとは… 新しい価値観や技術の伝道師を意味する言葉。林原では、サステナビリティ活動の主体者として、方針の社内浸透と意見の取りまとめ、経営層への提言を担う担当者を指します。

**START**
プロジェクトオーナーである社長がサステナビリティ活動を社員全員に浸透させる意思を表明。

### STEP 1 自分ごと化

プロジェクトメンバーに目標を自分ごと化してもらうため、所属している部門やそれぞれの仕事と、行動計画とを紐付けるワークショップを行いました。

### STEP 2 社内浸透準備

社内浸透に向け、全社で目標を共有できるイメージ図「サステナビリティ活動ー2030年に向かってー」を作成しました。

### STEP 3 社内浸透活動

エバンジェリストを通じて部門ごとに浸透をはかりました。メールや掲示板を活用するだけでなく、会議／報告会で“直接”説明。

### STEP 4 社内浸透確認と今後のプラン検討

社内からはサステナビリティ活動と仕事の関連性が見えないという声も。そこで各部門の具体的な取り組み事例を社内ポータルで紹介する取り組みを開始。21年度のアンケート結果や社内の声に耳を傾けながらアップデートしていきます。

SINK IN ［全員への浸透］

## ありたい姿に向けた対話サポート

社員と経営陣が互いの考えや想いを共有する場である「ありたい姿の対話」の運営をサポート。自部門の対話の取りまとめを中心に、時には他部門の対話にも参加するなど、部門を越えて社員の声に耳を傾けました。

## 次年度に向けて

21年度の活動に対する社内アンケートを実施。前年度よりサステナビリティ方針への理解・共感や、マテリアリティへの理解が進んだ一方で、役職や部門間でのギャップを感じていることも読み取れました。22年度は双方向のコミュニケーションの活性化と、自分で考え行動に移せる「気づき」を促すことに注力していきたいと考えています。

## Member's Voice

機能性色素部
技術開発課
**倉岡 大輔**

### サステナブル活動の社内認知度の向上を実感。今後の課題は「活動の具体化」と「横のつながり」。

SDGsという言葉すら知らない状態で参加し、わたし自身が学びながらメンバーと浸透活動に取り組みました。社員全員に理解してもらえるよう、さまざまな角度からの説明や働きかけを行ったかいもあり、認知度・理解度の向上を実感しています。一方で「具体的に何をすれば良いのか？」「活動がビジネスにつながるのか？」という声も。活動の具体例やビジネスとの関係を示す必要性を感じています。21年度は社内の各部署への浸透活動に注力しましたが、22年度は部署間など横のつながりを意識し、全社一体となって推進できる活動につなげたいですね。

NEXT ［次のレベルへ］

# Open Innovation Project

オープンイノベーションプロジェクト

地球をまもり、人と自然が共生する豊かな未来をひらくため、わたしたちの技術をもっと社会に活かしたい。そんな想いで立ち上がったオープンイノベーションプロジェクト。社会課題のテーマ探しからスタートし、それらを解決するために社内のアセットを探り、外部と連携しながら未来に価値を創造する研究につなげます。そのために取り入れたのは社内アイデア募集と産学連携。全員参加プロジェクトのアドバイザーとして伴走いただいた横井教授が教鞭をとられている岡山大学とは、オープンイノベーションプロジェクトを通じて共創を続けています。今後は他大学や研究機関、民間企業などの共創パートナーと、未来をより良く変える種を増やし、育てます。

## 社内アイデア募集

新しいテーマを生み出すために、社内の研究員がサステナビリティの観点で自由に発案し、100を超えるアイデアが集まりました。有志によるディスカッションを経てテーマを絞り込んでいきました。

×

## 産学連携による共創

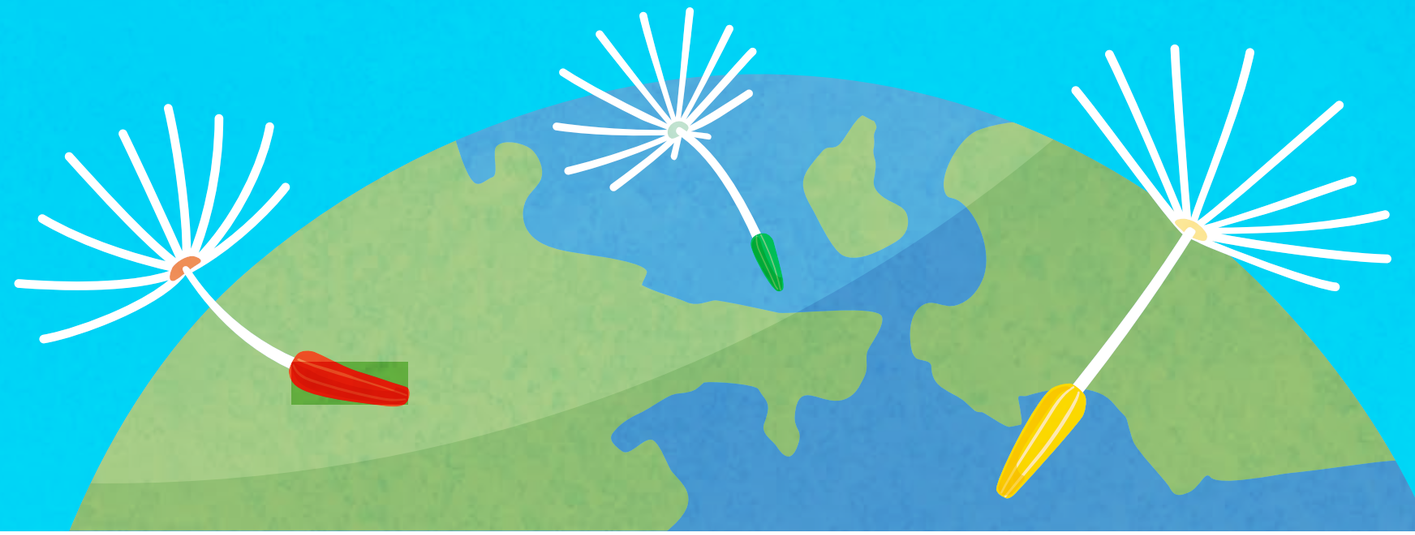
社内から募ったイノベーションの種と岡山大学の教授陣の研究テーマをマッチさせて実現性を模索するなかで、第二、第三の共創に向けた手応えを得ることができました。今後はそれらを実現する活動を進めながら、さらなるパートナーシップ共創に注力します。

## Member's Voice

知財・法務部門
知財部 調査・渉外課
**大橋 英美子**

### 組織を越えたオープンな会話がより良い未来をひらく

部門を越えたメンバーが集い、各自の仕事にとらわれず、より良い未来につながるアイデアを創発してきました。事業性を追求しながら社会課題を解決する取り組みは容易ではありませんが、岡山大学の先生も含め、普段は接点の少ない研究者同士の会話がブレイクスルーを生むのを目の当たりにし、組織を越えた会話の可能性を感じました。また、林原の強み、弱みを知る機会にもなりました。1社では限界があるからこそ、産学連携をはじめ、より多くの共創パートナーとの研究を実現し、加速させていきたいです。個人的には、林原の糖質素材の新たな可能性をひらきたいですね。人に優しく、自然と共生できる未来につなげられたらと思います。



林原のSDGsアドバイザーである
岡山大学・横井副学長にインタビュー。
全員参加プロジェクトや
オープンイノベーションプロジェクトに
ついて伺いました。

## 自然に寄り添い、共創を通じて未来への種を発芽させてほしい。

国立大学法人岡山大学
上席副学長・ユネスコチェアホルダー
**横井篤文**教授

アドバイザーとしてプロジェクトをサポートしました。土壌の菌を活かし、自然に寄り添ってイノベーションを起こしてきた企業だけあって、サステナビリティに通じる思想がベースにある。そのためか、みなさんの感度の良さが印象的でした。今後、期待したいのは、人にも地球にも優しい未来の食料システムの構築です。自社だけでは解決が難しい複雑で難解なテーマに挑みながら、そのプロセスや成果も発信していただきたい。利益を追わず、多種多様な研究を自由にできるアカデミアと、社会のニーズをくみ取り事業化する産業界。それぞれの強みを活かし手を取りあって、未来を照らす希望の光となってほしいのです。同じ志を持つパートナーを増やしながら、産学共創で社会課題の解決を加速させましょう。